

聖書箇所：ヨハネ 19：28～30

タイトル：「主の十字架の叫びが聞こえますか？」

テーマ：十字架につけられたイエス様は、旧約聖書で預言されていたとおりの救い主として、預言とおりの死を迎えようとしておられた。今日の聖書箇所で、イエス様は二つのことばを発せられた。「わたしは渇く」と「完了した」という言葉が、ヨハネの福音書では十字架上での最後の言葉として記されている。

イエス様は何に渇いておられたのか？そして、何が完了したのか？ イエス様のこの二つの言葉は、私たちに何を語りかけてくださっているのか。十字架上で私たちの罪の身代わりとなって死んで下さったイエス様の言葉の中に、最後まで私たちを愛し抜かれたイエス様の御心を読み取っていきましょう。

1. 「わたしは渇く」 28節、29節

①まことの神であり、同時にまことの人であられたイエス様の人間としての叫び

②十字架刑の残酷さ

*釘付けにされた傷の痛み

*ずり下がる体を立て直そうとするときの呼吸困難

*耐えがたい喉の渇き

③旧約聖書の預言の成就

「私が渇いたときには酔を飲ませました」（詩篇 60：21）

「舌は上あごに貼り付いています」（詩篇 22：15）

③神から離れた人間の渇き

2. 「完了した」

①父なる神の視点から（父なる神がイエス様を人として遣わされた理由）

*律法を成就するため

*人々がイエス様をとおして父なる神を見るため（知るため）

*私たちの罪の身代わりとして、十字架の死を遂げさせるために

②イエス様の視点から（イエス様が人として来られた理由）

*父なる神と心を一つとされて

*受難のしもべであることに徹して

*私たちの罪の身代わりとしてご自身を喜んで捧げるために

③父なる神と子なる神の究極の視点

*贖いの完了の宣言

*旧約で示された贖いの方法の終焉を告げるため

3. 結論